

なぎさ NEWS



「西なぎさ」のマハゼ事情



「西なぎさ」で採集されたマハゼ

水族園では、毎偶数月、葛西海浜公園「西なぎさ」で小型地曳網を用いた生物調査を行っています。今回は8月1日に実施した調査結果から、例年とは異なる動向が見られたマハゼについてお伝えします。

マハゼは「西なぎさ」で毎年採集される、釣りなどでもおなじみの魚です。例年の調査であれば、4月～6月に稚魚が毎回100匹以上見られ、8月になるともう少し深いところに移動するため「西なぎさ」ではほぼ見られなくなります。しかし、今回は全長2cmほどの稚魚から10cmの成魚に近い個体まで、さまざまな大きさのマハゼが合わせて約100匹も採集されたのです。

なぜこのような結果になったかはわかりませんが、今年は梅雨明けが遅く、7月後半まで気温が低い日も多かったために、例年であれば6、7月ごろに見られる大きさの稚魚が8月になっても「西なぎさ」にいたのかもしれない。10月の調査ではどうなっているのか、今から楽しみです。

長年調査を継続することで、このような生き物の動向が発見できます。これからも皆さまに「西なぎさ」の生き物の様子をお伝えできるよう調査を続けていきます。（飼育展示係 太田 智優）

「西なぎさ」で教員セミナーを実施

7月31日と8月1日の両日、「西なぎさ」で小学校教員を対象に教員セミナー「干潟を体験！環境と生きものを知る」を実施しました。このセミナーでは実際に干潟で生き物観察を行い、先生たちに、そこにくらす生き物の多様さや観察することのおもしろさを感じてもらいます。また、このようなフィールドでの体験をどのように授業に役立てていくかも考えてもらいました。

午前中は「西なぎさ」で砂地にある無数の穴や石のすきまをのぞいたり、泥に足をとられながらカニを追いかけたり、時にしゃがんで干潟にいるカニの行動を観察しました。大人である先生たちも、子どもと同じように干潟を楽しみながら、干潟という環境にあった生き物の体のつくりに関心しているようでした。

午後は、午前中に観察したことを授業でどのように活かすかを考え、発表してもらいました。先生たちは、観察した生き物の特徴や行動を、クイズ形式や劇などさまざまな手法でまとめてくださり、その発想力には驚かされました。

今回参加していただいた先生たちには、「西なぎさ」をはじめ、いろいろなフィールドに子どもたちを連れていき、生き物のおもしろさや多くの生き物がくらす環境の大切さを伝えてもらいたいと思います。

（教育普及係 西村 大樹）



しゃがんでカニの行動観察

なぎさ 生き物ミニ情報

水族園は葛西海浜公園の「西なぎさ」で、フィールド調査を行っています。今回は、8月に行った地曳網調査と9月に行った生き物調査の結果をお伝えします。

8月地曳網調査：気温 31.0℃、水温 31.0℃。4月に見られた全長1～2cmほどのマハゼの稚魚が、大きなものでは10cmほどにまで成長していました。また、アサリの稚貝が多く採集されたのも、今回の特徴です。マゴチやサツパの稚魚といった夏におなじみの魚も見られました。

9月生き物調査：気温 25.1℃、水温 25.2℃。干潮線付近ではアカエイが掘ったすり鉢状のくぼみがたくさん観察されました。しおだまりでは全長3cmほどのマゴチの稚魚が多数観察され、さらに、稚魚のエサとなる小さなイサザアミが非常に多く観察されました。